

牛群検定通信 No110

～ 検定成績表が西暦表示となります ～

元号が「令和」となり1カ月余り過ぎました。今月から牛群検定成績の暦表示を以下のとおり、西暦表示とします。

(1) 西暦対応となる項目

検定成績表の「検定年月日」「分娩年月日」「前回検定」「今回検定」「分娩予定年月日」「組合、都府県平均の速報日」になります。西暦化するこの機会にそれぞれの項目についてその意味や活用方法などを復習してみましょう。

(2) 検定年月日

牛群検定にとって最も重要な日付です。2回搾乳立会の場合は、夜→朝と検定を行いますが、そのうち朝の日付が検定年月日となります。A T検定の場合は、検定を行った時の日付が検定年月日です。牛群検定で分娩や授精を報告できるのは、検定年月日までのもので、検定年月日より未来のものは報告できません。また、月初の1日に検定を行うことはできません。

(3) 前回検定、今回検定

検定成績表の最上段に表示されています。この項目は検定と検定の間隔をチェックするためのものです。検定は毎月実施と決まっていますが、日付は大きく動かさないことが原則です。動かす場合であっても前回検定日から概ね3日以内に留めてください。検定間隔としては27～34日程度になります。

（４）受付日、発行日

月日表示のみなので西暦対応では影響がありません。この項目は牛群検定として大事なチェック項目です。検定成績は、検定立会後できるだけ早く家畜改良事業団に送信する必要があります。そうしなければ、農家に送付される検定成績表が遅くなり、体細胞数などの疾病対策、授精や発情予定に意味が無くなってしまいますからです。検定から発行までの日数は、概ね５日以内を目安としてください。もちろん、早ければ早いほど良いことになります。もし、長くかかるようでしたら、検定組合や検定員に相談してみてください。

（５）分娩予定年月日、分娩年月日、授精月日

牛群検定の基本機能として最も重要なものが、この３つの項目、とりわけ分娩予定日です。今でこそ、市販のソフト等により簡単に分娩予定日を計算出来るようになりましたが、授精後に妊娠期間２８０日を、個人が暗算するのは困難です。分娩予定日は泌乳期間を決定づけるもので、飼料給与やＢＣＳ管理、乾乳予定などに欠かすことは出来ません。このように極めて重要な分娩予定日ですが、これは正確な授精報告がキーとなります。しっかりと授精を記帳しておいて、検定の際に正確に報告してください。また、分娩年月日も泌乳開始後の泌乳ピークや授精適期を知るため基本情報として重要です。

これらは、今回から西暦の表示となりますが、お間違いの無いようにお願いします。